

認知症の人との上手な接し方

認知症の人の気持ちを知ろう

「認知症の本人に自覚がない」は大きな間違いです。もの忘れによる失敗や、今までできていたことができなくなり何かおかしいと感じ、次のような思いを抱えています。

不安な気持ち

「自分に何が起きているのか」
「この先どうなるのか」

悔しい気持ち

「何でこれができないのか」
「みんなからバカにされる」

申し訳ない気持ち

「家族に迷惑をかけている」
「もっと役に立ちたい」

認知症の人との接し方ポイント

大切なご家族がもの忘れが多くなったり、認知症と診断されると様々なことに戸惑われ、感情的になったりすることもあるかと思えます。しかし認知症の方は何もかもできなくなるわけではなく、できる機能を大切に工夫して接していけば自分でできることもずいぶん増えます。

良い接し方

- 本人の希望や意思、ペース、長年の習慣などを尊重しましょう
- ささいなことでも家庭や社会での役割を担ってもらおう
- できないことを責めるのではなく、できることを誉める
- 失敗を避けるためにやらないのではなく、失敗しないように手助けをしましょう。
- なるべくポジティブな声かけをしましょう



良くない接し方

- × 叱りつける
- × 命令する
- × 強制する
- × 子ども扱にする
- × 急がせる
- × 役割を取り上げる
- × 何もさせない



こんな時どうする？

食べたはずなのに「ごはん、まだ？」



「もう少し待ってください」などと伝え、植木の手入れなど別のことをしてもらって関心をほかにもそらしましょう。ちょっとした間食を用意するのも満腹感を呼び覚ます一案です。「さっき食べました」と諭すのは逆効果です。

「同じことを何度も」話しかけてくる



「今日は何曜日？」などと同じ質問を何度もされたり、同じ内容の話を繰り返されたりしても、はじめてされたつもりで丁寧に應對しましょう。時間がないときは「あとでゆっくり聞かせて」と事情を話しましょう。

家族に向かって「どちらさまですか」



人間関係がわからなくなり、家族をほかの誰かと間違えたり、知らない人と思ったりしてしまうことがあります。「あなたの子どもでしょ!」などと感情的にならず、本人を混乱させないために、ときには別人を演じましょう。

急に興奮して「攻撃的に」なる



認知症の人は周囲が思う以上に日々ストレスがたまっており、ちょっとしたきっかけでイライラが爆発します。「バカにされた」「無視された」など怒りの理由をたずね、こちらに非があれば謝って信頼関係を保ちましょう。